

主の公現

福音朗読 マタイ 2・1-12

2025.1.5 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

わたしたちの人生はいろんな変化に満ちているとすることができると思います。それは好むと好まざるとにかかわらず。皆さんも年の初めにあたって、では去年の今頃から今年今日にかけて、やっぱりいろんな出来事を経験されたし、多くの変化があったのではないかと思います。

わたしもこの正月に故郷というか実家に行きましたけども、今年はずうの父が入院しておりますので、考えてみたら生まれて初めてお正月を父がいないという中で過ごしたんです。ずっと今まで考えてみたら父がいたので——別に帰ったから父がいたからなんということはないんですけども——でも今までとは違う過ごし方を家族でしたということがあります。

わたしたちの経験する多くの変化は、ある意味では——例えば甥っこたちは成長してましたとか——だんだんいろんなことが分かったり、世界が広くなっていったりっていう好ましい変化もあると同時に、入院したり——自分じゃなくても、あるいは自分自身も——だんだん、去年できたことが今年は難しくなるとか、体調も変わっていくなどの、そういう苦しい変化もあるのではないかと思います。

そういう変化を神様の導きとして受け入れていくというのが、ある意味ではわたしたちの信仰の与えてくださる一つの強さ、生き方であると同時に、またそれを通して日々変わっていく、そこに肯定的な意味を与えることができる、それを見出していくと言いましょか——というのも信仰の世界なのではないでしょうか。

この信仰の世界を聖書の中では旅になぞらえられることが多いわけです。今日のイエス様がお生まれになったときでも、遠くの国から旅をしてイエス様に会いに来た人たちがいました。また、旧約聖書を見ても、信仰の先祖と言われているアブラハムも神様に呼び出されて故郷から旅に出たっていうことからお話

が始まります（創世記 12 章参照）。また、イエス様が大人になった^{あと}後は、イエス様も旅に出るし、そしてイエス様に出会った何人かの人たちは弟子になってイエス様と一緒に旅をする。そういうように、聖書に出てくる旅というのは場所の移動というよりは、それまでのあり方から変化していくことを通して神様に導かれるっていう、信仰のものの見方を表しているように思います。

で、今日、遠くの国の人たちが長い旅をしてイエス様に会に来ました。でも、最初に旅に出たアブラハムの子孫なんだから自分たちで思っているイスラエルの民の人は、エルサレムにいて、そして救い主がどこにお生まれになるのかっていう情報も持っているのに動こうとしませんでした。ベツレヘムまで——エルサレムからベツレヘムまでは大体直線距離で 10km ぐらい、道が曲がりくねっていたとしても 14、5km だと言われてます。歩いたら 2 時間か 3 時間かかるかもしれないけど、そんな長旅ではない——。遠くの方からそこまで旅をしてきた人もいれば、エルサレムの人たちはベツレヘムに向かって動こうともしないっていう、そういう対比が描かれていたわけです。これは、わたしたちが信仰生活を通して神様に導かれるっていうことを頭で分かっているながら、でもつい慣れ親しんだいろんな自分の生活のリズムであったりまた自分の計画ということから^{はず}外れるようなことを嫌う、そこを肯定的に受け入れることがそういつも簡単なわけではないということを表しているような気がします。しかし、わたしたちは絶えずそこに呼び出されて行くことを通して、救い主に出会うというか、変えていく、成長させられていくと言っても良いのではないかと思います

旧約聖書でアブラハムが神様に呼び出されたときに、「あなたは行きなさい、わたしが示す地に（創世記 12・1）」と言われました。でも本当はそこにもう一つ、日本語には訳されない小さな言葉が入ってるんです、と習いました。「あなたは行きなさい、あなたに向かって、わたしが示す地に」っていう、「あなたに向かって」っていう一言が入ってるようなんです。でもそれを訳しちゃうと、「わたしが示す地」なのか「あなたに向かって」なのかが、なんか物語としてわからなくなっちゃうから、日本語や他の^た現代語には訳されないという、でも本当はとっても重要なんです。何故ならば旅の意味っていうことがそこに示されているわけですから。

わたしたちは変化を通して神様に導かれることによって、それぞれ自分自身が成長させられていく。成長させられるっていうのは、知識が増えるとか、でき

ることが増えるだけではない。今度はできていたことを手放していくっていう経験も——イエス様が最後に十字架に向かってあらゆることを手放していくことを通して父である神様のみ旨を実現していくことにつながっていく——その本当の意味での人間になっていく歩みでもあるというわけです。

今日、主の公現の祭日にあたって、遠くの国からイエス様に出会うために旅をして来たってという人たちのエピソードを聖書を通して思い出しました。それが一人ひとりの生活の中でも、例え旅に出なくても——それは空間的な旅ではない——、一人ひとりが神様に導かれる思いで色々な変化、周りや自分自身の変化を受け入れていく、そこにまた希望を見出していく、そういう歩みの旅に呼ばれているということの中に希望を見失うことがないように、いつも信仰を通して、自分自身の人生を歩みながら成長させられていくというか、自分として形作られていく、自分に向かっての旅を続けることができますように。その導きと、そしてその導きに心を開く、そのための助けをごミサを通していただきたいと思っています。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>